

高校生用 ライフプランニング学習副読本「考えようふるさと秋田とわたしの未来」 活用状況調査集計結果（令和6年度）

調査対象：県内高等学校 50校（県立：43校、市立：2校、私立：5校）

※分校、地域校を含む。

※全日制課程及び定時制課程を併設する高等学校については、各課程における活用状況を統合して1校として集計しています。（通信制課程は調査対象から除外しています。）

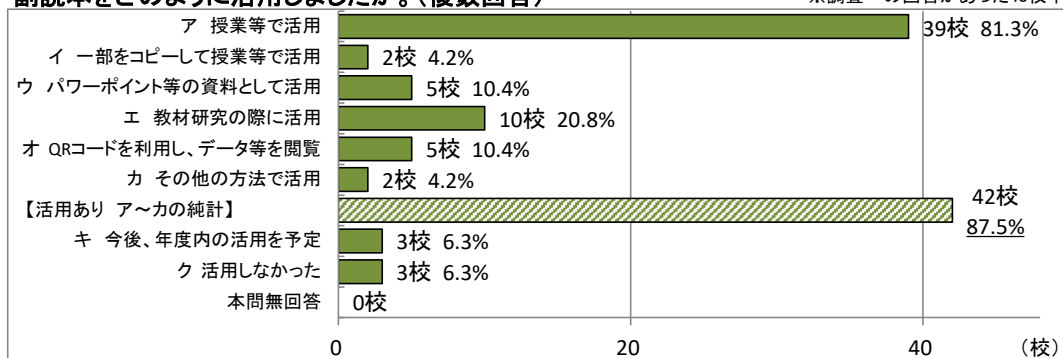
◎回答率 96.0%（回答48校／対象50校）

◎活用率 87.5%（活用42校／回答48校）

（ほか年度内活用予定3校）

問1 副読本をどのように活用しましたか。（複数回答）

※調査への回答があった48校中



活用方法「カ その他の方法で活用」の主な回答（類似の回答を統合し、主旨を簡略表記している。以下同じ。）

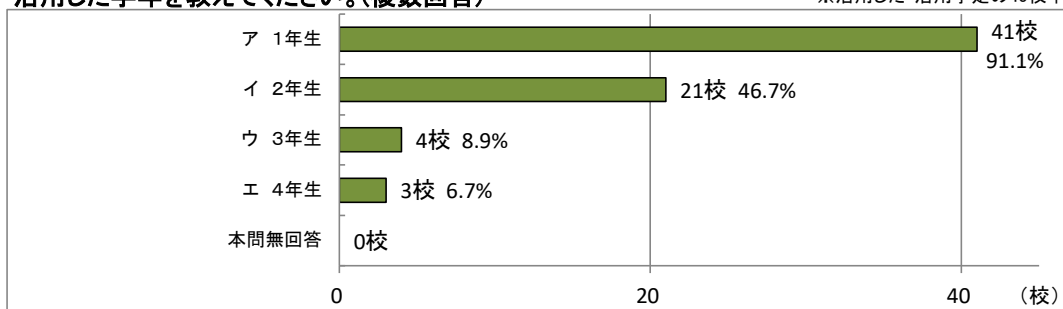
- ・調べ学習の資料の1つとして活用
- ・自分の進路等を考える資料として1年生に配布

活用状況「ク 活用しなかった」の主な理由

- ・次年度において活用予定

問2 活用した学年を教えてください。（複数回答）

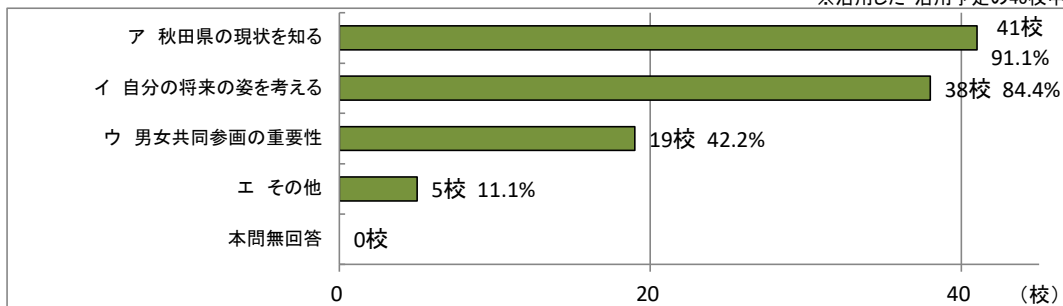
※活用した・活用予定の45校中



※定時制の課程における各学年を含む。

問3 副読本を活用した際の学びのねらいは、次のどの分野ですか。（複数回答）

※活用した・活用予定の45校中



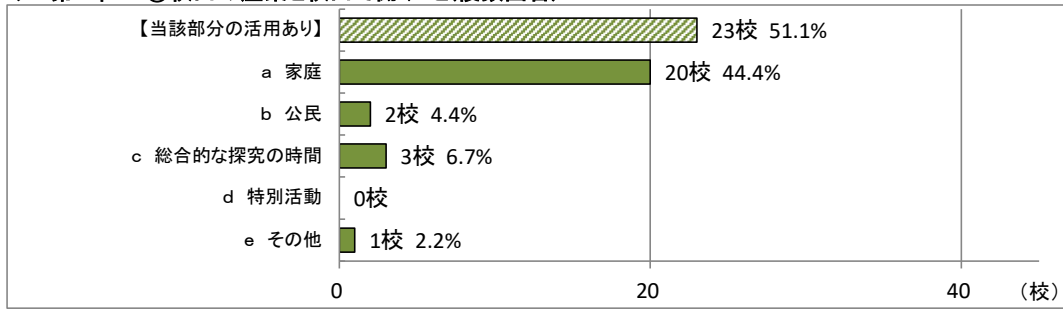
学びのねらいの分野「エ その他」の主な回答

- ・自分の進路（就職）について考える。
- ・自分のライフプランを描いてみる。
- ・高校での新しい人間関係のなかで、人との関わり方を考える。
- ・社会と正しくつながるために（裏表紙）
- ・秋田県の子育て支援が恵まれていることを伝える。都会と秋田の違いを知る。

問4 副読本のどの部分を、どのような場面で活用しましたか。

ア 第1章 ①秋田の産業と秋田で働くこと(複数回答)

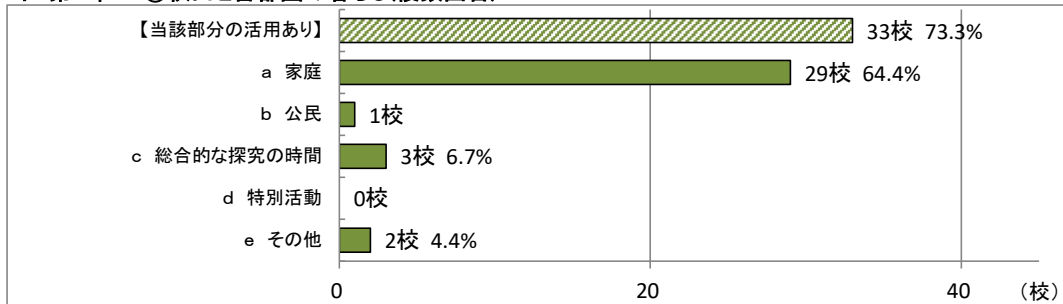
※活用した・活用予定の45校中



※活用場面「e その他」の具体的な場面に関する回答なし（以下問4において同じ。）

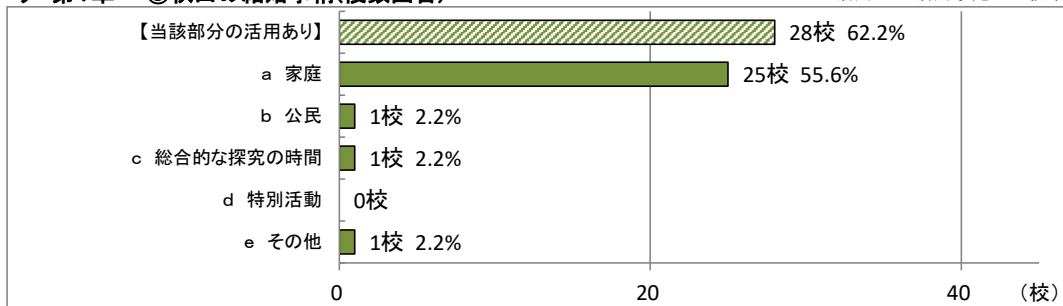
イ 第1章 ②秋田と首都圏の暮らし(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



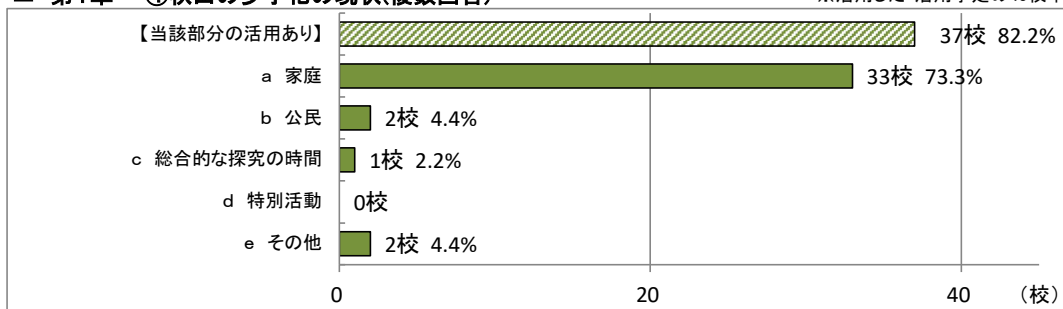
ウ 第1章 ③秋田の結婚事情(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



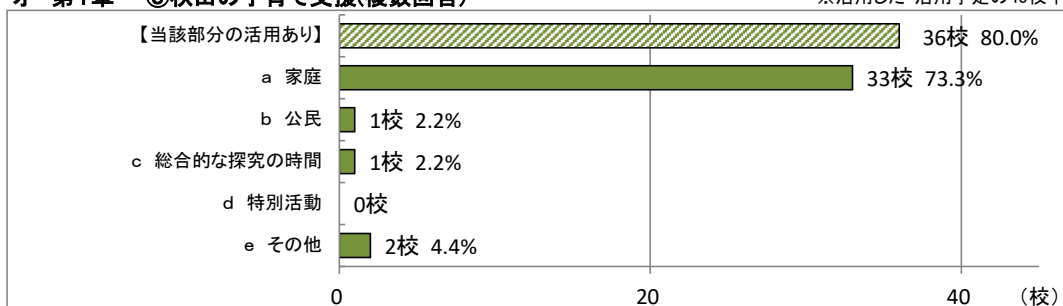
エ 第1章 ④秋田の少子化の現状(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



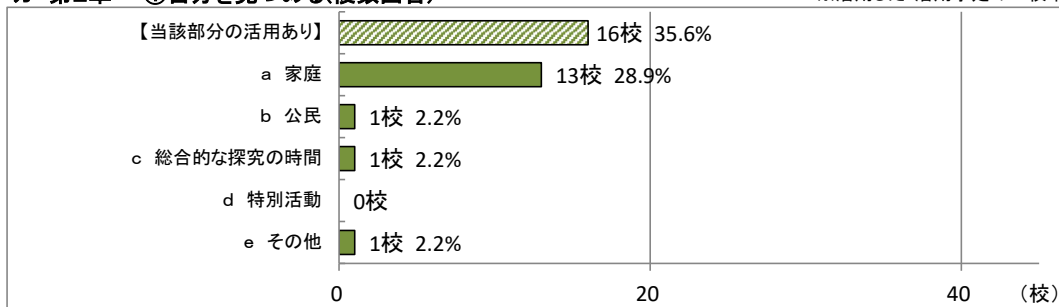
オ 第1章 ⑤秋田の子育て支援(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



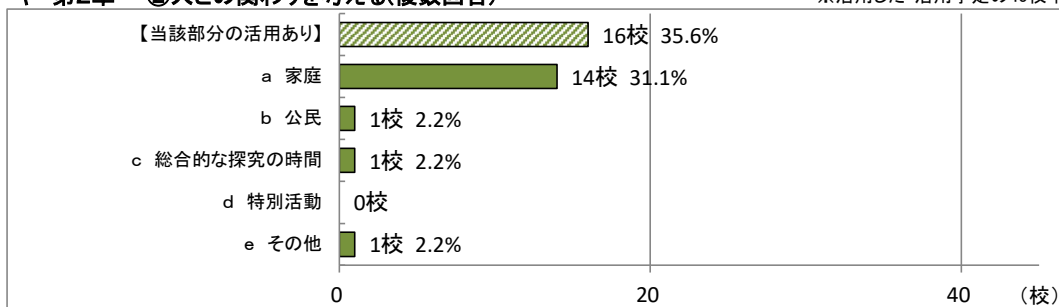
カ 第2章 ①自分を見つめる(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



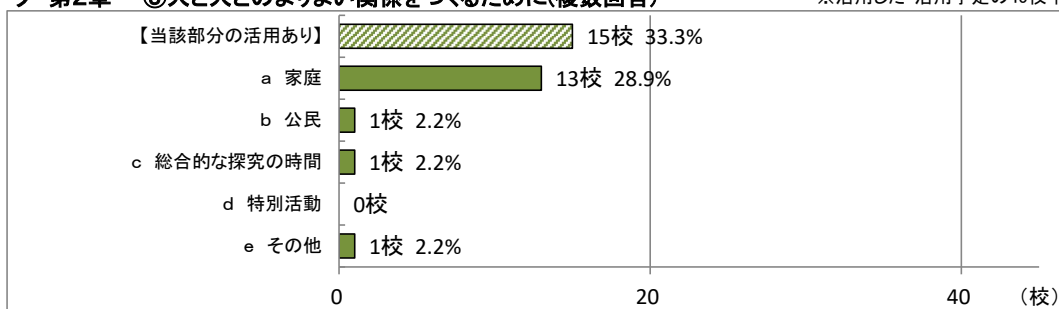
キ 第2章 ②人との関わりを考える(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



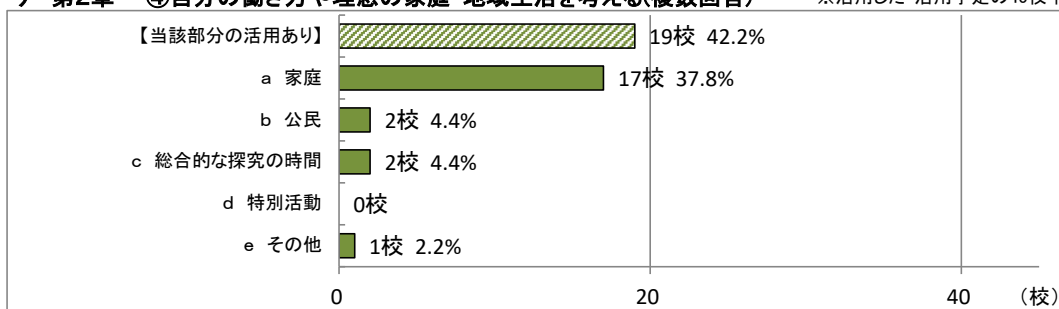
ク 第2章 ③人と人とのよりよい関係をつくるために(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



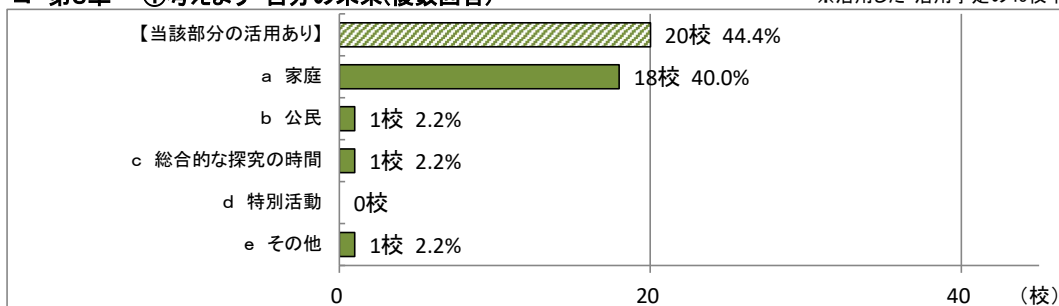
ケ 第2章 ④自分の働き方や理想の家庭・地域生活を考える(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



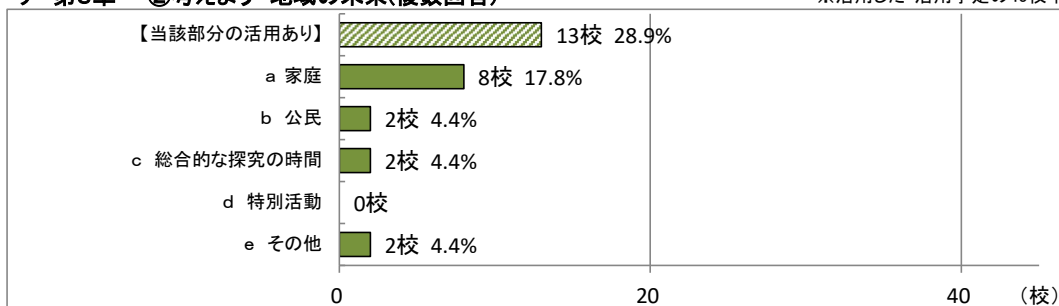
コ 第3章 ①考えよう 自分の未来(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



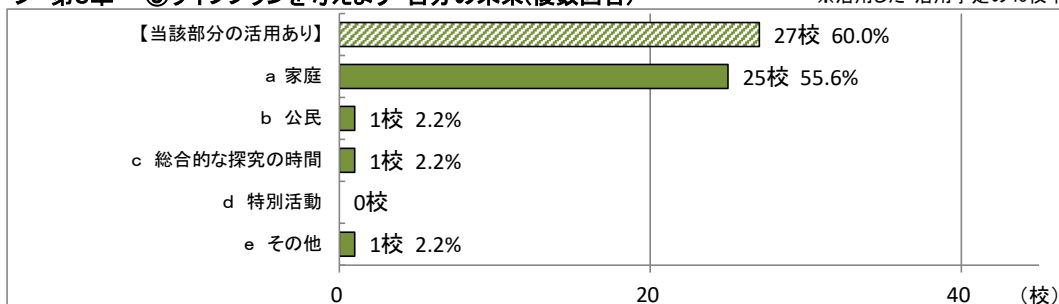
サ 第3章 ②考えよう 地域の未来(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



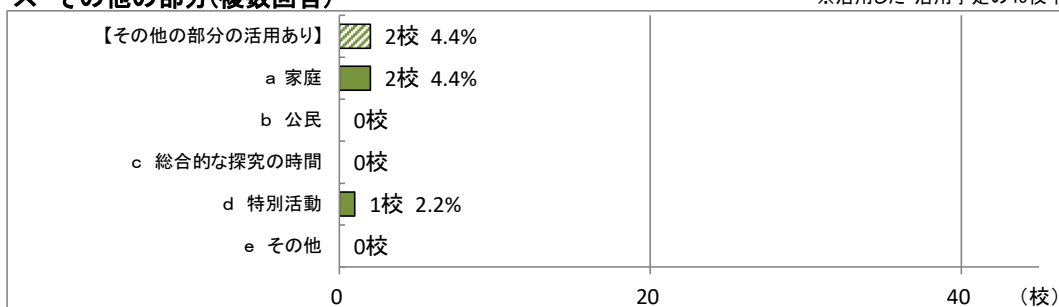
シ 第3章 ③ライフプランを考えよう 自分の未来(複数回答)

※活用した・活用予定の45校中



ス その他の部分(複数回答)

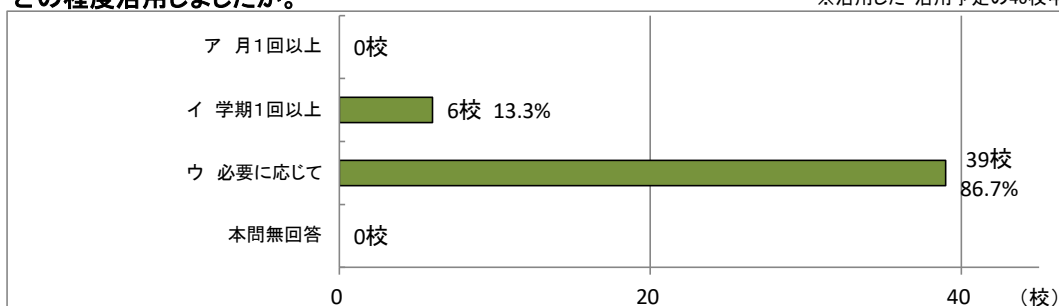
※活用した・活用予定の45校中



活用した「その他の部分」名の回答なし。

問5 どの程度活用しましたか。

※活用した・活用予定の45校中



「イ 学期1回以上」の活用頻度

※「イ 学期1回以上」の回答6校中

活用頻度	2学期制の学校	3学期制の学校
一学期当たり1回程度	1校	0校
一学期当たり2回程度	0校	3校
一学期当たり3回程度	1校	1校

「ウ 必要に応じて」の活用頻度

※「ウ 必要に応じて」の回答39校中

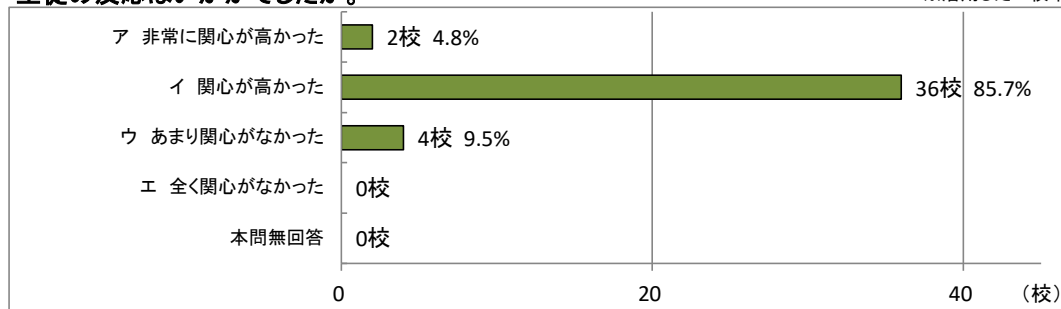
活用頻度	
年間1回程度	12校
年間2回程度	10校
年間3回程度	11校
年間4回程度	3校
年間5回程度・それ以上	3校

「ウ 必要に応じて」活用した学校での活用機会等についての主な回答

- ・家庭科(家庭生活分野、保育分野)、公民の関連単元の学習時に活用
- ・総合的な探究の時間に活用(インターンシップの振り返り、秋田県を理解するための資料など)
- ・地域の特色を調べさせる際に参考資料として活用
- ・自分の進路等を考える資料として配付し、活用させた。

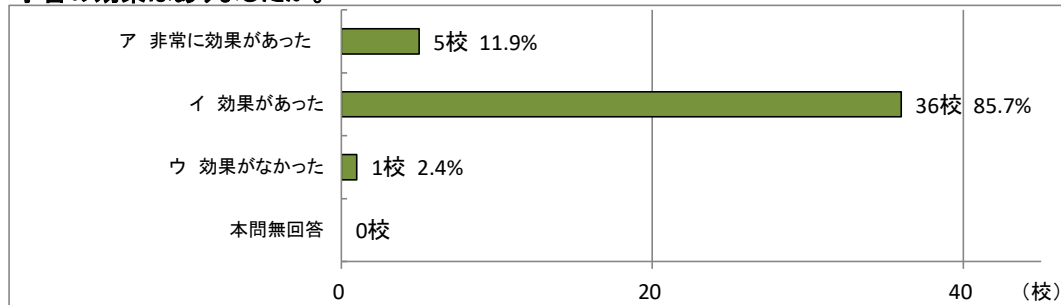
問6 生徒の反応はいかがでしたか。

※活用した42校中



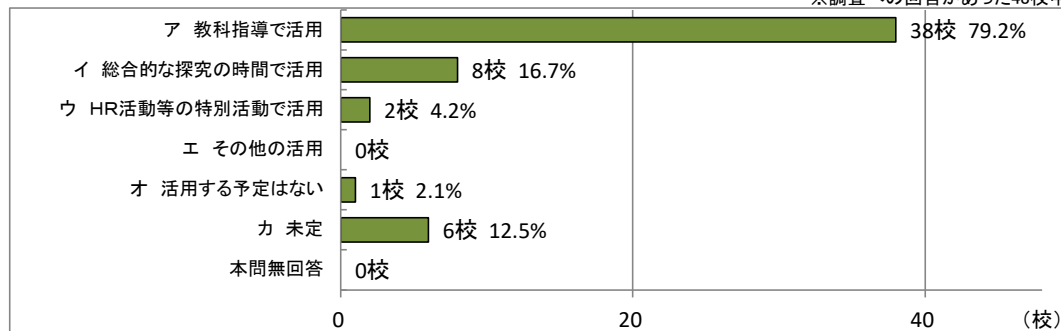
問7 学習の効果はありましたか。

※活用した42校中



問8 令和7年度は、副読本をどのように活用する予定(活用したい)ですか。(複数回答)

※調査への回答があった48校中



問9 副読本の内容等についての感想、意見等を自由に記入してください。

添付「問9 副読本の内容等についての感想、意見等（高等学校・R6）」を参照

問9 副読本の内容等についての感想、意見等（高等学校・R6）活用形態内容配付

主に副読本の内容や形態に関する感想、意見等
先を見通すのが難しい時代のせいか、一番最後にある「自分のライフプランを描いてみよう」は生徒はなかなか記入できません。例えば、将来やりたいことをリストアップさせた上で記入させるスタイルであれば記入しやすいかもしれません。
県や企業さんで取り組んでいる制度やしきみについて、高校生が分かりやすく説明されているものとそうでないものがありました。県の子育て支援事業(P8)は具体的で分かりやすい内容でしたが、えぼし認定、くるみん認定、もにす認定については、さらに調べることが必要となりました。
秋田県に関する最新のデータが記載されており、生徒も興味・関心をもって見ていた。特に、秋田と首都圏の比較は、教科書には掲載されていないので指導の際も参考になる。
授業等で直接活用する場面はなかったが、講話等で講師の先生が話された内容と副読本の掲載内容が重複するところが多数あった。
地域の取り組みが冊子になっていて見やすく、QRコードを読み取って動画で見ることができる内容もあって授業に取り入れやすいと感じました。
秋田県の実情を把握するための資料が豊富で、今後のライフプランを検討するためのよい手立てになった。
問6・問7については、「少子化」や「子育て支援」についての学習では、生徒が関心を持って学習に取り組んでいる様子が見られたが、副読本の効果であるかどうかについて判断することは難しいように思います。 また、この副読本を制作した趣旨が、「秋田県への愛着」や「定着意識の醸成」であることを考えると、それぞれの教科の目的や学習の計画に沿ったものではない冊子を学習に利用すること、そして学習の成果を求められることにはとても疑問を感じます。 活用度を高めるためにも、活用率の調査だけで終わったり、教員の裁量に委ねたりするだけではなく、それぞれの教科・科目の目的に沿った授業実践例や具体的な活用事例等を示してほしいと思います。
秋田県の現状を生徒に知らせる良い教材だと思います。
P.5の家計「秋田と東京の家計の比較」の表が小さいので、もう少し大きくしてはいかがでしょうか。生活の違いが分かりやすいため、活用しています。
秋田のよさや現状、取組等が様々な視点からコンパクトにまとめられており、今後も適宜活用したい。
年々様々なデータが更新され、大変見やすく分かりやすい内容であるため、授業で活用させていただいています。特に、生徒たちは、首都圏と秋田を比較した経済事情や子育て支援などに、興味を抱くようです。また、ライフプランを描くワークシートでは、自分の将来について真剣に悩み考える姿から、良い機会と捉えています。
子育て支援の取り組みや就職活動の際に参考になる認定マークなどを紹介している。行政や企業の支援制度があることを知り、子どもを育てることや仕事と育児・家庭との両立について安心感をもつ生徒が多い。 「人との関わりを考える」を実施してみると、生徒たちの考え方やかわり方の特徴を把握することができ、生徒自身も自分の考えや行いを見直すきっかけになった。
・秋田に関する内容が詰まっているので、一般的な資料集よりも興味をもって目を通して生徒が多いと感じています。 ・秋田で働くことに関する内容については、様々な産業や企業について紹介があり、指導する側としても知識を得ることができてよいと思います。「秋田ではやりたいことや新しいことはできない」と考えている生徒も多いため、そうではないということを伝えられるよう、秋田で起業した方や若者を支援する事業などの紹介があるといいのではないのでしょうか。 ・子育て期までの内容は充実していますが、高齢期についての内容も取り入れていただけると、生涯を見通す力を育むことに少しでもつながるのではないかと考えます。（高齢期へのマイナスイメージをもっている生徒も多いので、TOPICなどで秋田で生き活きと活躍されている高齢者の方の紹介動画などがあるとありがたいです。） ・県で配布している多様性に関する冊子と併せて効果的に活用できるよう、内容や配布時期を擦り合わせしてほしいです。
毎年、貴重なデータを基にした副読本を作成していただきありがとうございます。 毎年、在籍生徒以上の冊数を頂いておりますので、大変申し訳なく思っております。
PCのデータ利用もできるようになり、使いやすくなったと思います。
・首都圏にある企業で、秋田県にいても在宅で仕事ができる企業（リモートワーク等）があれば紹介してほしい。 ・秋田県の魅力を高校生に知って欲しいということを目的とした副読本であるという認識だが、第2章「自分らしく生きよう」①～③の内容に違和感を感じる（第1章の内容との繋がりがあるのか？）。むしろ④の「自分の働き方や将来の家族の在り方、地域生活の在り方」についてのワークを多めにするとよいのではないかと。それが最終ページの第3章「ライフプランを考えよう」を考える際に活かされるのではないかと。思う。 ・高齢期について考えるための資料が少ないと感じる。福祉や介護に関する情報をもっとあると良い（介護する側やされる側等、秋田県の福祉サービスに関する情報）。 QRコードが掲載されていて、年々情報量が増えていると感じます。授業ですべて活用するのは難しいですが、「秋田で子育てを頑張る家族」のような動画は、生徒に将来のイメージをもたせやすく、とてもよいと思いました。授業で活用しやすいようにパワーポイント版があると助かります。それから、1学年の生徒数を想定した数量が届きますが、例年入学者定員を大きく割り込む状況ですので、かなりの量を毎年廃棄することになり心苦しく思っております。送付前に必要冊数を問い合わせいただけると助かります。

問 9 副読本の内容等についての感想、意見等（高等学校・R6）活用形態内容配付

(続き) 主に副読本の内容や形態に関する感想、意見等
QRコードがあることで、授業では触れなかった情報についても各自で興味関心を持って積極的に検索している様子が見られた。特に、本校は進学校であるため進学についての情報はたくさんあるが、就職に関する情報はあまり触れる機会がないため、「秋田県就活情報サイト」の奨学金補助などの内容についてはとても関心を持っていた。 今年度は教育課程の移行期で開講されていなかった公共が来年度2年次の必修科目として開講されるので、副読本を積極的に活用していきたい。
主に副読本の活用や配付に関する感想、意見等
2月3日(月)に大館市で開催された「大館・北秋田地区企業説明会」の基調講演後にあった地域振興局からの説明(秋田県と東京都の各比較-給与平均、可処分所得額、労働時間、生活時間等)とも関連付けて生徒に伝えた。最新の情報を更新していただければありがたい。
家庭科の授業の中で、一部使用させていただいております。大変貴重な情報だと思います。 しかし、他の場面での活用(共有)が難しく、せっかくの冊子を十分に使いこなせていなくて、申し訳ありません。 可能でしたら、裏表紙でも良いので、クラス・出席番号・名前を記入できる枠を作っていただきたいです。 (年間を通して、活用する場面を作るのであれば、保管の関係上ほしいです。)
本校の場合、自分の将来の活躍の場として秋田県以外を検討している生徒も少なくない。 本県への定着意識の醸成を図ることに重点を置く授業は、表現や伝え方に配慮しながら実施している。 本副読本は、生徒の本県への愛着を育み、自分らしく生きながら、将来はふるさと秋田の発展に直接的・間接的に貢献する態度を養うための教材として活用している。
毎年、家庭科の授業で活用させていただいています。
次年度は総合的な探究の時間でも活用したいと考えています。 高校生にとって関心のある内容が盛り込まれており、興味をもって読んでいた。
秋田県の産業や子育て環境などについて理解を深めながら、ライフプランを考えさせることができました。
2年生の家庭総合の授業の中で男女共同参画社会に関する内容を資料として活用したいと考えています。
家庭基礎の教科書、資料集にある内容なので、年度当初に配布し、資料として活用した程度になります。
今年度は1年ビジネス基礎の授業で生徒へ配布・説明する予定ですが、本校のような専門高校では、コンパクトにまとまりすぎていて活用しにくいように感じました。来年度は、教科の授業ではなく、LHRでの活用を検討してみたいと考えています。
・秋田の情報を独自に収集するのは時間的にも困難なので、このような資料があることにより教材研究を効率的に行えたとともに効果的な授業の展開につながっています。
次年度以降についてはどのように活用するか未定です。
今年度は使用できなかったが、自分の住んでいる地域の現状を知り、生き方を考えさせるうえで有効だと思う。 次年度は活用したい。
本校は家庭基礎のため、学習内容が非常に多く、それに合わせて授業プランを考えている。 資料として参考にする場合はWebから活用させていただくので、webから利用する際にアンケートを実施するなどにしてほしい。 年度末にアンケートの回答を求めるのは避けていただきたいです。